

BIE申請へ着実な取り組み

国際博覧会開催への大きなステップとなるものであり、来年春に予定している博覧会国際事務局(BIE)への登録申請に向けて、博覧会協会では、その準備作業に鋭意取り組んでいます。BIE議長らとの実務協議をはじめ会場建設費の策定、環境影響評価書の作成、各プロジェクトチーム以下、PT)の精力的な検討など、着実な進展状況をお知らせします。

BIE議長らと実務協議

準備状況は「順調」と認識

博覧会国際事務局(BIE)のフィリピン議長とロセルタレス事務局長が、十一月十五日に来日し、博覧会協会が来年予定している登録申請に係る実務協議などを実施しました。

両氏は十九日までの滞在期間中に、実務協議の間をぬって、会場候補地の視察や深谷通商産業大臣、神田愛知県知事、豊田博覧会協会会長、地元政財界の関係者などとの懇談も精力的に行いました。



愛知青少年公園を視察するフィリピン BIE 議長(右から2人目)とロセルタレス BIE 事務局長(右から3人目)(11月16日)

国際博覧会について

国際博覧会を開催することで、パリをはじめ開催地は大きなメリットを得てきた。愛知県にとっても同じことがいえるだろう。

県民の皆さまに対して、EXPO2005に対する支援をお願いしたい。

来日目的について

国際博覧会の準備状況の視察と実務協議は、BIEとしての博覧会についても常に行っている。

ただ、今回は本年九月に、会場候補地が変更拡大されたとの報告を日本側から受けていたため、その変更拡大の理由、およびそれに伴う会場計画の修正などの説明を受けるために、重要な実務協議に果たと認識している。

準備状況について

全体として順調だと思ふ。会場の変更については、その対応を博覧会協会全体で、現在肅々と行っている。今後、BIEに出される書類を委員会検討することになる。

輸送交通機関についても説明を受けた。また、環境面の重要性も、お互いに認識を一致させた。

テーマについて

大変良いものだ。BIE加盟の諸外国からも歓迎されている。

日本がEXPO2005開催を勝ち取ったのは、このテーマが各国に評価されたからだと思ふ。

今回来日の感想について

EXPO2005の最高責任者から実務レベルの担当者の方々と直接お会いして協議をし、開催に対する熱意を感じるとともに、BIEとの連絡がより緊密になったと実感している。

今後とも綿密な関係を保ち、EXPO2005が大きな成功を納めることを願っている。



博覧会協会名古屋事務所での記者会見(11月17日)

神田知事と黒田総長がBIE総会でスピーチ

十二月八日、パリで開催されたBIE総会に、神田愛知県知事、黒田協会事務局長が出席し、会場候補地拡大の経緯や取り組み状況および開催実現への決意などについてスピーチを行いました。

2005年日本国際博覧会

●会場候補地(検討中)●
愛知県瀬戸市南東部
および隣接地

●開催期間●
2005年3月25日～9月25日

会場建設費を公表

おおむね千八百億円を見込む

十一月二十九日、博覧会協会は現段階の会場建設費の概算値を公表しました。

会場建設費の考え方

会場建設費の検討にあたっては、国際的にも評価される博覧会の実現に向けて、環境への配慮を十分行い、二千五百万人と予想している観客の安全、利便性などを確保する、博覧会のテーマの具体化にかかわるものに重点的投資をするなど、メリハリを持たせ、という考え方で取り組んできました。一方で、現下の厳しい財政・経済情勢などを踏まえるとともに、平成七年の開催申請にかかわる閣議了解を念頭に会場建設費を圧縮す

環境影響評価書を作成

通商産業大臣へ送付、市民へも公開

博覧会協会では、「二〇〇五年日本国際博覧会に係る環境影響評価書」を作成し、十月二十五日付けで通商産業大臣へ送付、十一月には市民の方へ公開しました。

通商産業大臣は九日以内に、環境庁長官の意見を踏まえた、環境の保全の見地からの意見を述べるようになっていきます。

この評価書では、準備段階で検討した従来からの会場計画案と、愛知青少年公園などを環境保全措置として活用する会場計画案とを比較検討し、後者を選択することとしました。

ただし、現段階の計画では影響が否定できない



2,400ページを超える「評価書」とその「あらまし」

第十回企画調整会議(11月25日)

各PTの検討がさらに進む

この会議では、各プロジェクトチーム(以下、「PT」)の検討状況の報告が行われました。

コンセプトPT

サブテーマについて、自然の叡智への十二のアプローチを基に検討を行うとともに、博覧会の基本理念等をいかに博覧会終了後の街づくりに反映させるかについて検討。

また、市民参加のあり方についても議論を深めています。

会場計画PT

会場の配置計画や施設計画について、運営面などから検討。なお、観客輸送PTおよび環境PTとの合同のワーキングを実施し、各PT間の調整も図っています。

観客輸送PT

会場内の観客輸送について、ITSによる隊列走行バスの利用を前提として検討。また、会場へのアクセスについては、会場周辺の道路交通状況、駐車場の整備などについて検討しています。

環境PT

今年九月に公表した会場基本計画を踏まえ、検討。また、建設・準備、会期中および撤去の各段階において、ごみとして排出される不用品を最小化するために、関係者全員が守るべき取り組みの標準仕様として、EXPOルール」の策定を検討しています。

ITS高度道路交通システム

第三回国際シンポジウム開催

THE 3rd
INTERNATIONAL
SYMPOSIUM

第三回国際シンポジウム「二十一世紀の感性創造—エデュテインメントの発展」が十月三十一日、名古屋と東京の二カ所で開催されました。両会場合わせて約五百名が参加し、映像やコンピュータによるプレゼンテーションを受けるだけでなく、ロビーに設置された出演者のCD・ROMや作品などに直接触れながら、体験型のシンポジウムを楽しんでいただきました。

シンポジウムの冒頭ではメイン会場の名古屋国際会議場と東京のサテライト会場（千代田放送会館）が中継で結ばれ、名古屋在住の涂善祥氏による中国琵琶の演奏（名古屋会場）と、愛知県の代表的歌人である春日井建氏の作品朗読（東京会場）が里山の映像をバックに見事に一つのパフォーマンスとなり、両会場を結ぶ美しい感性のコラボレーションとして披露されました。続いてシンポジウムのテーマ「エデュテインメント」（学びと遊びの融合）が、前半の「ショーケース」では四名のクリエイターのプレゼンテーションを通して具体的に説明され、後半のパネルディスカッションでは様々な角度から意見が出され、活発な議論が行われました。

（学びと遊びの融合）が、前半の「ショーケース」では四名のクリエイターのプレゼンテーションを通して具体的に説明され、後半のパネルディスカッションでは様々な角度から意見が出され、活発な議論が行われました。



涂善祥氏の琵琶演奏

エデュテインメント・ショーケース

トッド・マコーバー氏

作曲家 米国マサチューセッツ工科大学(MIT)メディアラボ教授



ションではこの発想に至るまでの経緯が過去の作品やプロジェクトで分かり易く解説されました。

藤幡 正樹氏

メディア・アーティスト、東京芸術大学教授



ジェフリー・ショー氏

メディア・アーティスト、独逸カールスルーエ・アート&メディアテクノロジー・センター(ZKM)ビジュアルメディア研究所所長



の例が次々に藤幡氏のパソコンから大型画面に飛び出し、独自の虫の音をした操作用音とともに観客を楽しませてくれました。

ミッチェル・レズニツク氏
米国MITメディアラボ助教授



東京でプレゼンテーションを担当したレスニツク氏は、題名の「LELONZのUNDERGARDEN—生涯遊学園」の通り、人生で最高の学び場所は勉強や遊びという区別がなく、色々なものを創造しながら時間を過ごす幼稚園だというコンセプトを持ち、この思想をもとに開発したクリケット（こおろぎ）というおもちゃの実演を見せながら話を展開していききました。このクリケットというおもちゃは好きな形をレゴブロックで組み立て、その動きのプログラムをコンピュータで創ってチップに送り込み、合体させます。もし二つ以上クリケットを制作すれば、互いに接することによる相互作用も展開できます。子供が楽しみながら論理を学べる仕組みのソフトは、他にもたくさん研究中だそうです。この模様は名古屋にも中継で簡単に紹介されました。



パネルディスカッション

後半は、柏倉康夫氏（京都大学教授）をコーディネーターに迎え、前半の四名の方に加え、博覧会協会の方に加え、博覧会協会の企画運営委員の廣瀬通孝氏（東京大学教授）、メディア・プロデューサーで香港在住の羽仁末央氏が参加し、両会場を結んで議論が展開されました。各氏を取材した映像も上映され、エデュテインメントの核心に触れる議論とともに、二〇〇五年に愛知で開催される博覧会に対する様々な提案もなされました。特に全出演者の意見が一致したのは、二〇〇五年には現在開発されている様々な技術が生活に

も浸透し、ソフト部分での新しい試みが専門家ではなく一般の生活者レベルで楽しめる段階になっているだろう」ということ、そして「博覧会という場は一人ひとりがコンピュータに向かうだけではなく、色々な人が出会い、実際にモノを見たり触れたりする直接体験を共有する場として更に重要性が増す」ということでした。

このパネルディスカッションの様子は来年一月二十九日（土）午後一時、NHK衛星第一のBSフォーラムで放映される予定です。

2005年日本国際博覧会シンポジウムマラソン

「第十三回シンポジウムマラソン」（愛知県主催）が十月十三日（土）、東海市で五百名の市民の参加により開催

今回のテーマは「エデュテインメント—二十一世紀のお祭り文化」で、近年ファッションデザイナーの枠を越え、イベントの仕掛け人としても活躍されている山本寛斎氏（博覧会協会企画運営委員）、YOSAKOIソーラン祭り組織委員会専務理事・長谷川岳氏、につぼんど真ん中祭り実行委員会代表・水野孝一氏をパネリストに迎え、CBCアナウンサー丹野みどり氏の進行で実施しました。

第一部後半では、今年八月開催された「につぼんど真ん中祭り」に参加した、二チームがステージ狭しと踊りを繰り広げました。

第二部の山本寛斎氏の「人間讃歌」をテーマにしたトークショーでは、モスクワ・ベトナム・インドでのスパーショーのビデオ上映を交え、「二十一世紀は自然に対して再確認する時代、そして、博覧会についても、生きている喜びをぶつけることができるものとなっていく」と訴えました。

パネルディスカッションでは、パネリスト三名がそれぞれ祭りを言うきっかけ、苦労話、ポイントなどを語り、「YOSAKOIソーラン祭り（平岸天神）」、「につぼんど真ん中祭り」のビデオを上映しました。そして、ボランティアの重要性を始め、EXPO2005開催に向けて、



ステージ狭しと踊りを繰り広げるみなさん
提供：EXPO2005 地球市民の会



名古屋と東京を中継で結びながら、活発な意見交換が行われたパネルディスカッション

「TOY SYMPHONY（トイシンフォニー）」創造力と楽しさをすべての人という題名の交響曲は、世界一流の交響楽団や演奏家がマコーバー氏の楽曲を、彼が開発したハイパー楽器（楽器のあらゆる部分にセンサーが仕込まれ、演奏者の微妙な動きや体温、鼓動などをコンピュータが読みとり、それをもとに既存の音楽を効果的に増響させる仕組みの新しい楽器）を活用して演奏するものです。最終的には子供たちを交え、子供のセンスで演奏できる現在開発中の新しい楽器類で世界一流の演奏家たちと共演させるのが目標だそうです。この夢に溢れた企画は二〇〇二年には実現するそうですが、プレゼンター

藤幡氏は「昆虫採集は勉強か？」という題名で、どこまでが本場で、どこからがヴァーチャル（仮想）なのかという疑問を、自らの作品を交え、楽しいプレゼンテーションを通して解説されました。例えば部屋へ入ると映像の机と机の上のランプがある。その映像の机の上にあるランプのスイッチをオンにすると、「本当にランプが明るくなる。果たして何が本当で何が仮想なのか・・・など。作品を見てみると現実と仮想の境界や定義が不確かなる現在のアートやテクノロジー

名古屋で開催された一九八九年の世界デザイン博で初めて来日したというショー氏は、GARDEN OF THE ACTIVITY—相互作用の庭—という題名で、彼を中心とする、ZKMの作品の数々を紹介しました。映像では彼が得意とするヴァーチャル空間を演出した作品もあり、作品内で物理的に離れている二人が意思の疎通ができる仕組みや、相互の作用で作品自体が変化するものなど、参加型作品の数々の具体的な説明がありました。

2000年版カレンダー 「花鳥風月」を30名様にプレゼント！

今回のカレンダーは、会場となる愛知県を拠点に活躍されているグラフィックデザイナー・小谷恭二氏の制作によるものです。



2000年版カレンダー「花鳥風月」

題名は「花鳥風月」。小谷氏によるオリジナル作品で四季折々の自然美を題材に、それらを生活に取り込んで親しむ日本人の心を美しく描き出し、博覧会のテーマの「自然の叡智」を表現しています。

このカレンダーを本紙のEXPO2005クイズの正解者のうち三十名様にプレゼントします。詳しくは巻末のEXPO2005クイズコーナーをご覧ください。

オリジナルポスターが 通商産業大臣賞を受賞

前号で紹介したオリジナルポスター全八種類のうち、グラフィックデザイナーの原研哉氏による作品六種類の（B全判 B倍判各三種類）が、第四十一回全国カタログ・ポスター展「主催・（社）日本印刷産業連合会（株）印刷出版研究所」においてポスターの部の最優秀賞、通商産業大臣賞を受賞しました。併せて、カタログの部でもパンフレット（アートディレ



B倍判ポスター3種の中から「鯉」

「どれがいいかな？」シンボルマーク、市民も投票

博覧会協会では二〇〇三年三月の発表をめざして、EXPO2005のシンボルマークの制定に取り組んでいます。今回は、前号でお知らせした「第一回審査委員会」後の動きについてお伝えします。

まず、博覧会開幕二〇〇五日前にあたる九月二十八日から、国内外十名のデザイナーによる指名コンペを開始しました（メンバーは

前号参照）。途中、蔡國強氏がスケジュールの都合で辞退されたものの、締め切りの十一月五日には九名のデザイナーから計四十作品をご提出いただきました。

次に、十一月十日に「第二回審査委員会」を開催、有識者八名による投票と審議の結果、十一作品が選出されました。更にこの十一作品を対象に、十一月二十一日には東京、二十七・

二十八日には名古屋で「市民審査」を行い、八十九名の方の投票を頂きました。

市民投票は前例がありません。無いシステムですが「参加型」をめざすEXPO2005の試みの一つとして導入したものです。対象は、春の「公開セッション」にご参加いただいた方といました。今後は、この投票結果も参考にして審査を進めてまいります。

「EXPO2005オリジナルグッズ」を 50名様にプレゼント！

今回のオリジナルグッズはアートカード、バンダナ、ペーパークラフト、環境音楽CD、マグカップ、ミネラルウォーターの六種類で開幕二〇〇〇日前を機に制作しました。

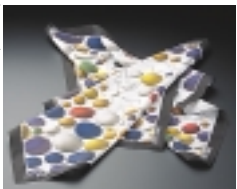
自然をイメージさせる「光」「風」「水」「土」の四つの要素をデザインテーマとし、中部クリエイターズクラブのご協力をいただき、同クラブ会長の岡本滋夫氏（名古屋造形芸術大学教授）の監修で博覧会のテーマ「自然の叡智」を表現しています。

既に、協会や自治体などが主催するイベント会場のPRブースでゲームに参加いただいた方にお配りし、大変な好評を得ています。そこで、本紙をご覧の皆様

さまにもアートカード十六種類をセットにして五十名様にプレゼントします。

応募方法

官製ハガキに郵便番号、住所、氏名、年齢、職業、電話番号、博覧会に期待すること、を記入のうえ、〒450-0002名古屋市中村区名駅3-15-1名古屋ダイヤビルディング2号館4階（財）2005年日本国際博覧会協会、オリジナルグッズ（アートカード）係まで。なお締め切りは一月三十一日（月）当日消印有



バンダナ



環境音楽CD



ペーパークラフト



ミネラルウォーター



アートカード



マグカップ

国際アイデアコンペの佳作入賞者

前号に引き続き、「EXPO2005国際アイデアコンペ」の佳作十四作品、十五歳以下の部四点、一般の部十点を紹介します。詳しくは当協会ホームページをご覧ください。（五十音順、敬称略）



『本当の星空見たことありますか』

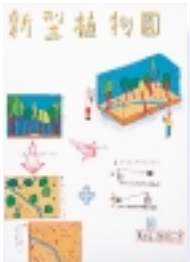
石川綾子
（半田市立青山中学校）

15歳以下の部



『A trip keeping in touch the green of trees 木々の緑に触れる旅』

伊藤芳恵
（知多市立八幡中学校）



『新型植物園』

中島崇志
（知多市立八幡中学校）



『タイムマシーンにのって、もじでいえをたてよう』

杉山みのり
（星美学園小学校）



『静伝管のネットワーク』

池田達（代表）他8名
（東京都中央区）



『ミズスマシロボット&浮島（プランター）浄化装置』

白水良一（代表）他4名
（愛知県春日井市）



『天水共創の里』

東海水琴窟ネット
中野之也（代表）他2名
（愛知県日進市）



『百鬼夜行』

磯野健介
（神奈川県藤沢市）



『マジックビューアー』

竹原正美（代表）他3名
（大阪府大阪市）



『EXPO2005 森の木々を介したボランタリー博覧会』

「森の木々を介したボランタリー博覧会」

中橋哲史（代表）他1名
（東京都）



『海上の森 里山博覧会』

海上の森自然観察会企画室
北岡由美子
（愛知県瀬戸市）



『EXPO2005:REAL-TIME MAN-ECOLOGY INFORMATION EXCHANGES（リアルタイム 人間・エコロジー情報交換）』

アッシャー・ダーマン
（アメリカ ニューヨーク州）



『偶然の大地 seeds tickets』

馬場正彰（代表）他2名
（東京都目黒区）

T O P I C S

EXPO 2005 トピックス

EXPO2005この1年

1999年

- 1月22日 会場基本計画の検討状況公表
- 2月4日 第4回環境影響評価アドバイザー会議開催
- 2月5日 第7回企画調整会議開催(東京)
- 2月20日 第2回国際シンポジウム開催(名古屋)
- 2月24日~3月23日 環境影響評価準備書公告・縦覧
- 3月19日 第5回理事会・評議員会開催
- 3月25日~7月31日 国際アイデアコンペ作品募集
- 4月12日 博覧会協会名古屋事務所移転
- 5月23日 シンボルマーク制定公開セッション開催(名古屋)
(6月5日に東京でも開催)
- 6月2日 ベルギー王国フィリップ皇太子、協会を表敬訪問
- 6月15日 第6回理事会・評議員会開催
- 7月3日 第1回オオタカ調査検討会開催
(第2回8月4日、第3回9月26日、第4回10月28日)
- 7月7日 愛知青少年公園等を会場候補地として加え検討開始
- 7月8日 第5回環境影響評価アドバイザー会議開催
- 7月14日 第8回企画調整会議開催(東京)
- 8月5日~8日 キッズ・プレイキャンパス 99実施
- 8月27日 小渕首相・堺屋経済企画庁長官、会場候補地視察
- 9月9日 第9回企画調整会議開催(名古屋) 会場基本計画検討状況、博覧会のアイデア公表
- 9月26日 国際アイデアコンペ表彰式実施
- 10月3日 開幕2000日前カウントダウンイベント(名古屋・東京)
- 10月14日 第6回環境影響評価アドバイザー会議開催
- 10月25日 環境影響評価書を通商産業大臣へ送付
- 10月31日 第3回国際シンポジウム開催(名古屋・東京)
- 11月15日~19日 博覧会国際事務局(BIE)フィリプソン議長・ロセルタレス事務局長来日
- 11月25日 第10回企画調整会議開催(東京)
- 11月29日 会場建設費1次案公表
- 12月8日 神田愛知県知事、黒田事務総長がBIE総会に出席
- 12月11日 第4回市民シンポジウム開催

EXPO 2005クイズ

今年11月に博覧会国際事務局のフィリプソン議長とロセルタレス事務局長が来日しました。この博覧会国際事務局をアルファベット3文字で何というのでしょうか。

答えの分かった方は、はがきに クイズの答え 住所 氏名 年齢 電話番号 アンケートの回答 - を記入し、次のあて先までどうぞ。

[アンケート]

Q1「EXPO2005だより」の入手先

Q2「EXPO2005だより」についての感想、要望

- あて先 / 〒450-0002 名古屋市中村区名駅三丁目15-1 名古屋ダイヤビルディング2号館4階
(財)2005年日本国際博覧会協会「EXPO2005 クイズ」係
- 締め切り / 平成12年1月5日(水) 当日消印有効
抽選で30名の方に当協会2000年版カレンダーをプレゼントします(発表は、賞品の発送をもって代えさせていただきます)。

あなたはエキスポに触れ合えましたか。

10月3日に、2005年日本国際博覧会は開幕2000日前を迎えました。それを機にこの秋、博覧会協会のほか、地元自治体・団体・企業が一体になって「Touch EXPO」(タッチ エキスポ)を共通の合言葉として、各地で数々のイベントを実施しました。



05二〇〇〇日前カウント

開幕二〇〇〇日前にあたる十月三日(日)には、博覧会協会が名古屋の久屋大通公園一帯と東京の渋谷109スクエアを結んで、「EXPO2005カウントダウンイベント」を開催しました。会場では、セレモニーに続いて、名古屋フィルハーモニー交響楽団や人気グループBEGINのコンサート、EXPOゲーム大会、EXPOドリムハウスなど多彩な催しを実施しました。両会場とも多くの来場者で終日にぎわい、博覧会にも大きな関心を持っていただきました。同日、会場候補地である瀬戸市でも「EXPO2005二〇〇〇日前カウント

博覧会開幕に向かって各地でカウントダウン



名古屋でのカウントダウン



渋谷のEXPO ゲーム大会

ダウンフェスティバル(瀬戸市主催)が開催され、人気女優の中村玉緒さんのトークショーや映画の上映など多彩な催しが行われました。

さらに、十月十日(祝)には一宮、十七日(日)には豊橋で「EXPOビレッジ



一宮でのEXPO ビレッジ



中村玉緒さんのトーク(瀬戸)

ジ(2005年日本国際博覧会カウントダウンイベント実行委員会主催)が開催。二〇〇五年の自分や家族にメッセージを送る「メッセージジカプセル2005」やその場で体験できる催しで大盛況でした。



名古屋まつりでの出展ブース

秋まつりの中でPR 秋はイベントシーズンです。博覧会協会では尾張旭市民祭、せと市民祭、名古屋まつり、春日井まつり、フレンドリーポート99秋、刈谷産業まつり99、東海秋まつり合同フェスタ99、豊橋エコテクノフェア99、東郷町文化産業まつり、長久手町民まつりなど、多くのイベントに出展し、来場者の皆さんに博覧会をPRしました。



ウルワールドでのLEEO

音楽を通じて みんなが博覧会を応援 音楽交流を通じた二つの博覧会支援イベントが昨年に引き続き今年も行われました。まず十月二十四日(日)に「LEE(O)リーオミュージック キャンプ99」が犬山市リトルワールドで開催。完成したLEE(O)オリジナル曲が市民参加によるファーストコンサートで演奏され、盛んな拍手を浴びていました。(財)リトルワールド、名古屋鉄道(株)、名鉄グループ主催



フィナーレでのセッション

「アジア・ミュージック・エキスポ99 中部電力(株)主催」は十月三十日(土)に名古屋市長総合体育館レインホールで開催。日本・中国・韓国のミュージシャンが出演し、会場を埋め尽くした観客の皆さんを魅了しました。フィナーレでは全出演者によるセッションで、会場は一層の盛り上がりを見せました。

発行 財団法人2005年日本国際博覧会協会

発行日 1999年(平成11年)12月13日 編集責任者 楠本 孝 部数 130,000部

名古屋事務所 〒450-0002 名古屋市中村区名駅三丁目15-1 名古屋ダイヤビルディング2号館4階

TEL 052-569-2005 FAX 052-569-2100

東京事務所 〒100-0011 東京都千代田区内幸町二丁目1-1 飯野ビル7階

TEL 03-5521-1601 FAX 03-5521-1607

「EXPOの耳」あて先

インターネット・ホームページアドレス

http://www.expo2005.or.jp

ご意見をお待ちしております。

「EXPOの耳」Eメールアドレス

voicebox@expo2005.or.jp

博覧会協会が現在使用しているこのマークは、誘致の際に制作されたものです。

